# 日本薬剤師研修センター
# 創立25周年で新たな飛躍
## 幅広く研修機会を提供へ

日本薬剤師研修センター（豊島聰理事長）は、今年で創立25周年を迎えた。豊島氏は「全国の全ての薬剤師の自己研さんを支援するための組織としてスタートし、なるべくたくさんの研修プログラムを提供してきた。自己研さんを始めてもらうための研修認定制度であり、既に4万1000人を超す薬剤師が認定を受けている。今後も必要な制度であると認識している」とし、四半世紀に及ぶ実績を踏まえ、改めて、全ての薬剤師に向け幅広く研修機会を提供していく方針を本紙に語った。

豊島理事長

創立25周年に当たって豊島氏は本紙に対し、「医療環境が大きく変わっていく中で自己研さんは欠かせない大事なこと。センター創設以来、それを二十数年継続している人たちに対し、何かをしなければと考えていた」と、表彰式を行った趣旨を語る。

薬剤師の自己研さん・生涯学習については、同センターが牽引してきたわけだが、「他の研修認定制度とは異なり、約2600という研修プロバイダを認定し、独自の研修も含め、年間1万4000件ほどの研修会を実施している。e-ラーニングを含め全国どこでも研修できる体制が唯一整っている。また、この体制は崩してはならないと考えている」と、その位置づけを指摘する。

出席さえすれば単位がもらえる――といった指摘もあるが、「まずは研修を始めることが重要だと考えている。取りあえず研修を始めて次のステップを目指してほしい。その評価については、自己診断できるシステムはあるが、それでは不満に思う人もいる。日本薬剤師会ではJPALSを構築し、研修そのものではなく、ポートフォリオの提出と試験の実施によって、自らがどのレベルにあるかを判断できる。これも一つの方向だと思っている」とし、日薬との連携の中で生涯研修〝見える化〟の重要性を指摘する。

「学会発表など学術貢献のある実力を持った人を認定しようと考えている」と大筋を示す。

試験については、実績がある医療薬学会の内容が想定されるが、OTC薬などセルフメディケーションに関する事項が不足しており、何らかの形でセルフメディケーションに関する項目も取り込んでいくようだ。

同制度は薬学関係団体共通のジェネラリストの認定といえるが、専門性に対する研修・認定に対する要望も強い。実際、学会中心に多くの専門薬剤師制度・認定薬剤師制度が構築されている。同センターでも2000年度から日本生薬学会と共同して漢方薬・生薬認定薬剤師制度を創設、その後、12年度からは日本小児臨床薬理学会と協力して、小児薬物療法認定薬剤師制度をスタートさせ、毎回参加希望が定員を上回る状況が続いているという。

今後の取り組みについて豊島氏は、「これらの専門薬剤師になるにはジェネラリストのベースが必要であり、その意味でも（総合薬剤師制度は）実力を判断することにつながるかもしれない」とした上で、「例えば、小児薬物療法認定薬剤師は小児に特化しているが、糖尿病など特定疾患への特化とは異なる。ある程度ジェネラルな部分を含んでおり、このような領域については、われわれが取り組むべきかもしれない」という。

その上で豊島氏は、▽市販後の安全性担保▽セルフメディケーション――をキーワードに挙げ、「認定制度はともかくとして、研修の必要性など関係団体から意見を聞きながら検討していく必要があると思っている」と語る。特にセルフメディケーションについては、「今後の薬局においては、健康情報拠点という点からも非常に重要だ」と語る。

## 更新回数多い認定者表彰

6人の認定者を表彰した

同センターでは創立25周年を記念し今月5日に、その象徴ともいえる更新回数6回目となる研修認定薬剤師を対象とした表彰式を行った。豊島氏によると対象者は392人だが、当日、同センターに集まった6氏に表彰状と記念品を授与した。

表彰式で豊島氏は「約20年、薬剤師として長年にわたり自己研さんに励み、この間の努力は多大なものであり、他の薬剤師の模範となるもの」と祝辞を述べた。同センターは、薬剤師の生涯学習の支援を目的に1989年、当時の厚生省薬務局の認可を得て設立。あらゆる職域の薬剤師が、優れた薬学ケアを実践できるよう、同センターに登録された機関が実施する研修を、規定の単位数受講した者を認定する研修認定薬剤師制度事業などを推進してきた。

## 生涯研修の〝見える化〟
### 関係5団体と新制度構想
### ジェネラリスト養成が視野

〝見える化〟という視点で現在、同センターを含め日薬、日本病院薬剤師会、日本薬学会、日本医療薬学会の関連5団体による「総合薬剤師制度（仮称）」構想が進んでいる。豊島氏は「中核的に働いている薬剤師を認定する制度を作ることで合意し、具体的な制度作りを進めている。5団体が認めるのであれば、医師や看護師など他の関係職種にも認めてもらえると思う」とし、団体・組織共通の土台を作り、これを外部に見えるようにすることが大きな焦点とする。

さらに「こういう制度を介し、実力を示していけば、より臨床現場に出て行きやすいのではないか。若い薬剤師が活躍しやすい環境を作るため、薬学関係団体が集まることが大事」とし、改めて関係団体の協力・連携を前提とした制度構築への強い思いを語る。

内容については、まだ検討中だが、認定のために特別な研修を課すのではなく、今ある様々な自己研さん、研修を経て、


# 学名でひく食薬区分リスト
健康食品・医薬品に区分される成分

**健康食品に使用される素材を明らかにし、その機能性と安全性のエビデンス収集のための必須情報**

厚生労働省による「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質（原材料）リスト（非医リスト）」及び「専ら医薬品として使用される成分本質（原材料）リスト（医リスト）」に示された成分本質（原材料）の名称や部位等と、それに対応する学名、他名、漢字表記、生薬名、科名、英名等の情報を収載。

目次
第1部　非医リスト（1037成分）
第2部　医リスト（332成分）
第3部　添付資料
1. 既存添加物名簿収載品目リスト
2. 天然香料基原物質リスト
3. 一般に食品として飲食に供させている物であって添加物として使用される品目リスト
・・・など
参考文献／索引／和名索引／学名索引

監　修　佐竹元吉
編　著　大濱宏文、池田秀子、関田節子
A4変形判　653頁　定価18,000円＋税

薬事日報社　ご注文は、オンラインショップ（http://yakuji-shop.jp/）または、FAX03-3866-8408まで。


当ファイルの著作権は㈱薬事日報社またはコンテンツ提供者に帰属します。当ファイル（印刷物含む）の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル（印刷物含む）を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。
株式会社薬事日報社　TEL:03-3862-2141　shinbun@yakuji.co.jp　http://www.yakuji.co.jp/